



令和2年 10月号 (第293号)

特集1

2019 年地盤沈下調査結果

特集2

2019 年度交通騒音・振動調査結果



昨年度の様子 (ひろばdeしぜんあそび)
「もりの学舎」秋の特別企画を実施中です! (P4)



豊田市立滝脇小学校
「第50回愛知県野生生物保護実績発表大会」を開催
しました (P10)

2020 11.5
10:00-16:00
オアシス21 (緑洲の広場)
参加無料・申込不要

食品ロス削減 イベント 減らそう!食ロス

ごみゼロ社会推進 あいち県民大会

スペシャルトークショー 家事えもん
11:20- 楽しむ
食品ロスは損してる! 家事えもんの食品使い切りレシピ

同時開催 イベント
ミニライブ 12:30- 名古屋CLEAR'S Re☆Sta

13:00- レジ袋削減取組 優良店表彰式
浅尾美和さん トークショー 世界の暮らしとひとびとのごみ事情

学ぶ みんなで学ぼう! 食品ロスってなに?
セカンドハーベストのフードバンク活動 10:30- 「もったいない」を「ありがとう」に変える活動 NPO法人セカンドハーベスト名古屋 理事長 山内大輔氏
食品事業者のSDGs パートナシップで食品ロスを削減しよう! 14:15- サステイナブルフードチェーン協議会
フードロス削減プロジェクト 食品ロス削減推進委員会 委員 浅尾美和氏 社会貢献部 浅尾美和氏 社会貢献部 浅尾美和氏 社会貢献部 浅尾美和氏
ドギーバッグ普及委員会ブース 愛知工業大学

食品ロスを減らすために行動しよう! 行動
フードドライブブース セカンドハーベスト名古屋
ご家庭で食べている食品をお持ちください!
食品ロス削減に取り組む 企業・団体ブース
食品産業各社の取り組み紹介・相談
ワタミ(株)・(株)セブン-イレブン・ジャパン(株)クラダシ 等

主催 愛知県・ごみゼロ社会推進あいち県民会議
お問い合わせ 愛知県環境局資源循環推進課
TEL:052-954-6234

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

「食品ロス削減イベント・ごみゼロ社会推進
あいち県民大会」を開催します (P5)



エコアクションを
はじめよう! つづけよう! つなげよう!

<http://aichi-eco.com>



「2019年地盤沈下調査結果」について お知らせします



愛知県では、1961年から継続的に地盤沈下の状況を観測・調査しています。この度、2019年に実施した水準測量、地下水位観測等の調査結果がまとまりましたので、お知らせします。

1 2019年の地盤沈下の状況

地盤の高さを計測する水準測量を、2019年は尾張・名古屋市地域と西三河地域で実施しました。

尾張・名古屋市地域では1cm/年以上沈下した水準点が7点で観測され、地震や少雨による沈下域（隣接する3点以上で1cm/年以上の沈下が見られた地域）も約3km²発生しました。1960年代に地盤沈下の激しかった尾張・名古屋市地域では、1985年以降、おおむね沈静化の傾向にあります（図1）。また、西三河地域では1cm/年以上沈下した水準点は観測されず、経年的な地盤沈下の傾向も見られませんでした。

2 地下水揚水量の状況

地盤沈下の原因の1つである地下水揚水量については、1975年度に県内で約2,500千m³/日ありましたが、揚水規制などの対策を進めた結果、2004年度以降は1,000千m³/日を下回っています（図2）。

3 まとめ

県内の地盤沈下はおおむね沈静化の傾向にありますが、地震や少雨による地下水位の低下などを起因とする沈下域が発生しました。

一旦沈下した地盤は元に戻らないだけでなく、地盤沈下が発生すると、浸水被害等の危険度が高まることから、引き続き地盤沈下調査や地下水位の監視を行うとともに、地下水の揚水規制等を実施し、地盤沈下の防止に努めていきます。

詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/mizutaiki/0000035266.html>)

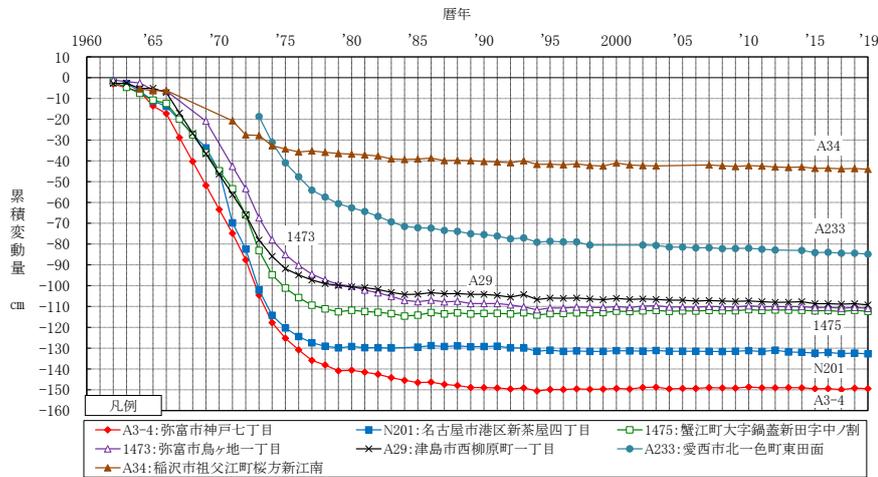


図1 主要な水準点の調査開始からの累積変動状況(尾張・名古屋市地域)

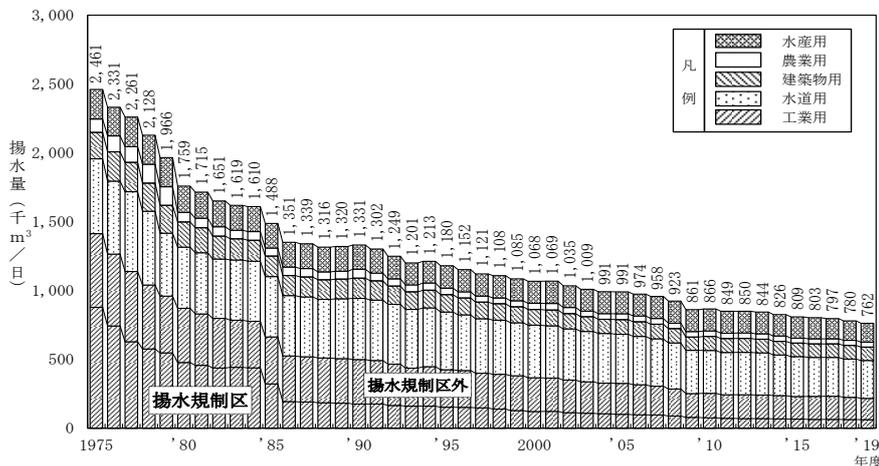


図2 愛知県の地下水揚水量

水大気環境課 生活環境地盤対策室
地盤沈下対策グループ
電話 052-954-6224 (ダイヤルイン)

2019年度に愛知県及び関係市町村が実施した交通騒音・振動の調査結果の概要は次のとおりです。

1 自動車騒音の環境基準達成状況

主要幹線道路 1,124 区間 468,389 戸のうち 453,270 戸 (96.8%) で環境基準を達成しました (2018年度は 1,105 区間 465,810 戸のうち 450,225 戸 (96.7%) で達成)。

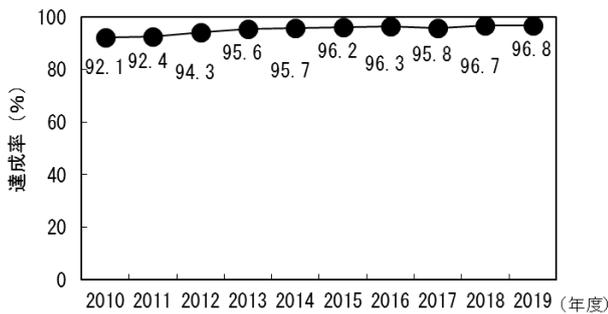


図1 環境基準達成率の経年変化 (自動車騒音)

2 新幹線鉄道騒音の環境基準達成状況

調査地点 72 地点のうち 52 地点 (72.2%) で環境基準を達成しました (2018年度は 74 地点のうち 52 地点 (70.3%) で達成)。

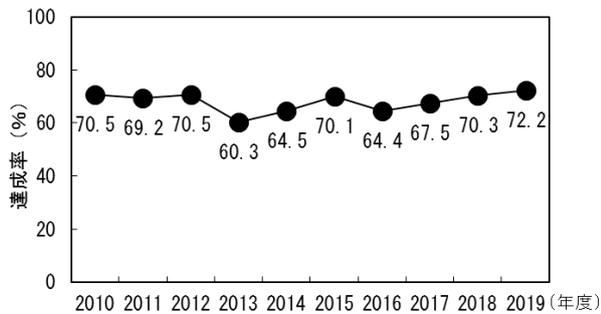


図2 環境基準達成率の経年変化 (新幹線騒音)

3 新幹線鉄道振動の指針値達成状況

調査地点 28 地点全てで指針値を達成しました (2018年度は 26 地点全てで達成)。

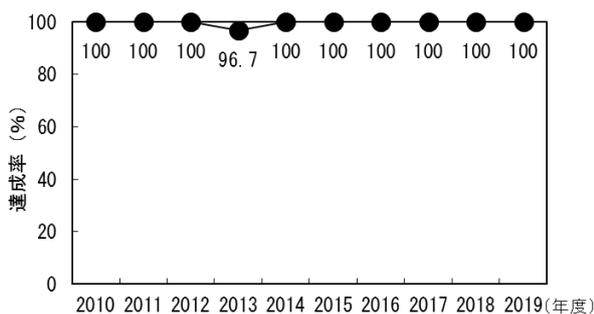


図3 指針値達成率の経年変化 (新幹線振動)

4 航空機騒音の環境基準達成状況

【県営名古屋空港】

調査地点 16 地点のうち 8 地点で達成しました (2018年度は 16 地点のうち 9 地点で達成)。

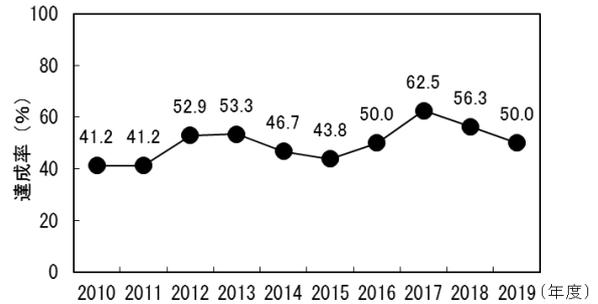


図4 環境基準達成率の経年変化 (県営名古屋空港)

【中部国際空港】

調査地点 5 地点全てで達成しました (2007年度以降、いずれの調査地点でも環境基準値を下回る)。

5 自動車騒音・振動の要請限度超過状況

- ・ 騒音は調査地点 131 地点のうち 9 地点で要請限度*を超過しました (2018年度は 127 地点のうち 6 地点で超過)。
- ・ 振動は調査地点 54 地点全てで要請限度を下回りました (2018年度は 58 地点全てで下回る)。

* 要請限度

騒音・振動が一定の限度を超え、道路周辺的生活環境が著しく損なわれると認められるとき、市町村長が公安委員会等に措置を執るよう要請する際の限度 (数値) のこと。

6 今後の対応

県及び関係市町村では、引き続き環境基準達成状況等を監視するとともに、関係機関と連携して交通騒音・振動対策を推進していきます。

詳細は Web ページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/mizutaiki/2019souon-shindou.html>)



水大気環境課 生活環境地盤対策室
生活環境グループ
電話 052-954-6214 (ダイヤルイン)

「子どもの目が輝く協働授業のコツ」研修の 受講者を募集しています



愛知県では、持続可能な社会を支える「行動する人づくり」を目指し、地域の団体・企業・社会教育施設等が、学校と連携・協働して授業をつくり上げる「協働授業づくり」を推進しています。

その一環として、地域と学校が協働して効果的な環境学習を行うための「子どもの目が輝く協働授業のコツ」研修を開催します。

地域の特性を生かした授業づくりをお考えの教員の方にもお勧めの研修です。是非ご参加ください。

1 日時 10月31日(土) 14:00~16:00

2 会場 愛知県環境調査センター
(名古屋市北区辻町字流7-6)

3 内容

第1部 【講義】協働がなぜ必要なのか・
協働するために大切なこと

第2部 【演習】協働授業づくり体験

4 講師 名城大学教職センター 教授 井中 宏史 氏 いなか ひろし

5 対象・定員

(1) 団体・企業・社会教育施設等の方

(2) 教員

各10名程度(申込先着順)

6 申込期間

9月28日(月)から

10月19日(月)まで

7 申込方法

申込用紙に必要事項を記入し、FAX 又は Eメールのいずれかの方法でお申し込みください。

申込用紙のダウンロードや申込先等の詳細は Web ページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/env-edu-collaboration-class2020.html>)

環境活動推進課 環境学習グループ
電話 052-954-6208 (ダイヤルイン)



協働授業づくり研修の様子



まなびや 「もりの学舎」秋の特別企画を実施中です!



愛・地球博記念公園(モリコロパーク)内の「もりの学舎」では、(公財)愛知臨海環境整備センター(略称:ASEC)の協賛により、秋の特別企画を実施しています。

モリコロパーク内をめぐるクイズラリー「森のナゾときウォーク」、リサイクル素材や身近な自然素材を使った工作教室「あそび工房」、身近にある植物を題材にした自然遊び体験「かたち鑑定団」など、様々なプログラムをご用意しています。参加費はいつでも無料です。

1 森のナゾときウォーク

(1) 開催日 10月1日(木)から10月31日(土)まで
(モリコロパークの休園日を除く。)

(2) 開催時間 9:00~16:30

(3) 内容

もりの学舎や総合案内所、西口休憩所などに設置

された解答用紙(地図)を入手し、地図に書かれた「ナゾときポイント」をめぐりながら、謎を解いていきます。ゴールのもりの学舎で、インタープリターと答え合わせをしてください。



森のナゾときウォークの様子

(4) 参加特典

参加者には、もりの学舎オリジナルエコバッグやASECオリジナルグッズをプレゼントします。

2 その他

「あそび工房」、「かたち鑑定団」の詳細については、Web ページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki>)

/kankyokatsudo/r2autumn.html)

環境活動推進課 環境学習グループ
電話 052-954-6208 (ダイヤルイン)



「食品ロス削減イベント・ ごみゼロ社会推進あいち県民大会」を開催します



愛知県では、食品ロス（食べられるにもかかわらず捨てられてしまう食品）の問題を広く県民の皆さんに周知し、考えていただくため、「食品ロス削減イベント」を開催します。

また、近年、世界的に話題となっているプラスチックごみ問題など、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の普及を進めるため、「ごみゼロ社会推進あいち県民大会」を同時開催します。

参加・観覧は無料で、事前申込みは不要です。

皆さんお誘い合わせの上、是非ご来場ください。

1 日時 11月5日（木）10：00～16：00

2 主催 愛知県・ごみゼロ社会推進あいち県民会議*

*事業者団体、消費者団体、県内市町村等 112 団体で構成

3 会場 オアシス 21 銀河の広場

（名古屋市東区東桜 1 丁目 11-1）

4 内容（予定）

(1) 食品ロス削減イベント（10：00～16：00）

①企業・団体の取組紹介

○講演

「セカンドハーベスタのフードバンク活動
～『もったいない』を『ありがとう』に変える活動～」

・NPO 法人セカンドハーベスト名古屋 理事長 ^{やまうちだいすけ} 山内大輔 氏

○パネルディスカッション

「食品事業者の SDGs パートナースhip で食品
ロスを削減しよう！」

- ・ワタミ(株) 執行役員 ^{ももせ のりこ} 百瀬 則子 氏
- ・(株)セブンイレブン・ジャパン サステナビリティ
推進室 アシスタント総括マネジャー ^{よしだ きみえ} 吉田 希美枝 氏
- ・(株)クラダシ 代表取締役社長 ^{せきとう たつや} 関藤 竜也 氏
- ・愛知工業大学 教授 ^{こばやし とみお} 小林 富雄 氏
- ・(株)オズマピーアール 関西支社支社長

^{くにとも ちづる} 国友 千鶴 氏(コーディネーター)

②トークショー

「食品ロスは損してる！
家事えもんの食品使い切りレシピ」

- ・芸人 ^{かじ} 家事えもん
^{まつし しゅうたろ} (松橋 周太呂) 氏



家事えもん
(松橋 周太呂)さん

③ブース出展

○企業出展

食品ロス削減に関する取組の紹介・相談 など

○NPO 法人セカンドハーベスト名古屋

ご家庭等で余った食品を持ち寄っていただく
フードドライブの実施

○ドギーバッグ普及委員会（愛知工業大学）

残った食べ物を持ち帰るドギーバッグの紹介

○スタンプラリー

スタンプラリーに参加された方にオリジナル
エコバッグをプレゼント

そのほか、動画やクイズすごろくを使った環境学
習などを実施します。

(2) ごみゼロ社会推進あいち県民大会（12：30～14：00）

①ステージイベント

○大村愛知県知事あいさつ

○レジ袋削減取組優良店表彰

○ミニライブ

・名古屋 CLEAR'S

・Re☆Sta

○トークショー

「世界の砂浜の美しさとひとびとのエコ意識」

・元ビーチバレーボール選手 ^{あきお みわ} 浅尾 美和 氏



浅尾 美和さん

②プラスチックごみゼロに向けた取組宣言の募集

会場では県民の皆さんから、プラスチックごみゼロ
に向けた取組宣言を募集します。参加者には先着
で記念品をお渡しします。

また、Twitter でもプラスチックごみゼロに関する
取組宣言をツイートしていただくと、抽選でプレ
ゼントが当たるキャンペーンを行います。たくさん
のご応募をお待ちしています。

詳細は Web ページをご覧ください。

([https://www.pref.aichi.jp/soshiki/
junkan/r2foodloss-kenmin.html](https://www.pref.aichi.jp/soshiki/junkan/r2foodloss-kenmin.html))



〔 資源循環推進課 一般廃棄物グループ
電話 052-954-6234 (ダイヤルイン) 〕

「温暖化まなびネット」の講師等に登録する 個人・事業者・団体等を募集中です



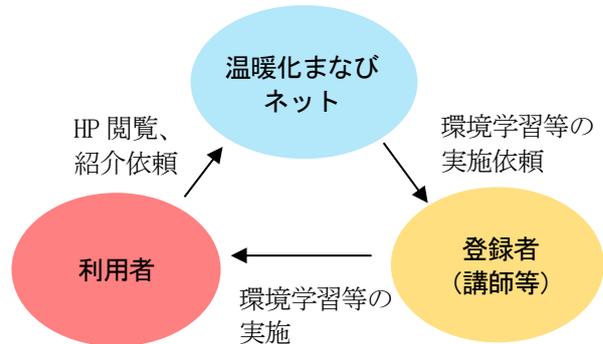
愛知県では、県民の皆さんの地球温暖化対策活動を支援するため、様々なテーマに合わせた講師や指導者等の情報を掲載・紹介する「温暖化まなびネット」を開設しています。

県内で地球温暖化対策に関する講師等として活動いただける方（個人・事業者・団体等）を随時募集していますので、是非ご応募ください。



豊川市の職員研修での活用例

【温暖化まなびネットとは】



1 応募方法

所定の登録申請書にご記入の上、Eメールと郵送の両方で提出してください。

2 登録の流れ

活動実績などを審査の上、講師等として登録します。詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/ondanka/onmananet.html>)



地球温暖化対策課 調整・企画グループ
電話 052-954-6213 (ダイヤルイン)

「エコ モビリティ ライフ (エコモビ)」実践のススメ



愛知県では、クルマ（自家用車）と公共交通、自転車、徒歩などをかきこく使い分けるライフスタイル「エコ モビリティ ライフ」（略称「エコモビ」）を推進しています。皆さん一人一人が、「エコモビ」を実践することによって、地球環境にやさしいだけでなく、安全で健康的な生活や、機能的で活力あるまちづくりの実現につながります。

毎月第1水曜日は「エコモビの日」です。

これをきっかけに「エコモビ」を始めてみませんか？



【**エコモビ** で、いいこと、いろいろ！】

☆CO₂削減！

1人を1km運ぶのに排出されるCO₂は、クルマと比べて電車なら約7分の1、バスなら約2分の1です！

☆継続すればダイエットに！

クルマで約25分の道のりを徒歩と電車で行く場合、カロリーの消費量は約2倍になります！*

*40歳の男性が10kmの道のりをクルマ通勤した場合と、徒歩10分、電車15分、徒歩10分で通勤した場合の比較

☆交通事故リスクの軽減や渋滞の緩和も！

詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/kotsu/ecomobi/>)

知って得するエコモビ実践ガイド

エコモビ 実践

検索



都市整備局交通対策課

エコモビリティライフ推進グループ

電話 052-954-6125 (ダイヤルイン)

10月は「クリーン排水推進月間」及び「浄化槽強調月間」です



愛知県では、生活排水対策に関する基本方針に基づき、10月を「クリーン排水推進月間」及び「浄化槽強調月間」と定め、市町村や浄化槽指定検査機関等と連携し、川や海などの汚れの主な原因である生活排水への関心を高めるとともに、浄化槽の適正な維持管理の重要性等について周知しています。

1 実践しよう！生活排水対策

浄化槽や下水道などでは、微生物の働きによって生活排水の汚れを分解し、きれいな水に処理していますが、その能力には限りがありますので、汚れた生活排水を流しすぎないように心がけることが大切です。

私たちの身近には、簡単にできる生活排水対策がたくさんあります。皆さんも、できることから少しずつ始めてみましょう。

身近な生活排水対策



洗う前に汚れを拭き取る。



水切りネットを活用する。



油は直接流さず、古新聞などに吸わせて可燃ゴミに出す。



洗剤は適量を使用する。

2 浄化槽の適正な維持管理が大切！

法令により浄化槽管理者（一般住宅の場合、世帯主）は、適正な維持管理を行うことが義務付けられています。浄化槽を十分に機能させるためには、①法定検査（水質検査等）、②保守点検、③清掃の全てを行う必要があります。

法定検査

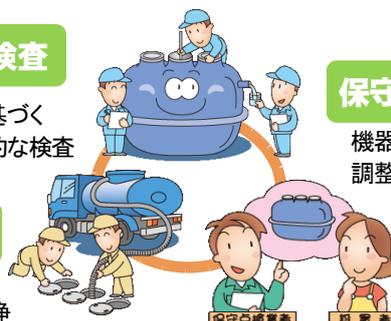
法に基づく総合的な検査

保守点検

機器の点検・調整・修理

清掃

汚泥等の引き抜き・洗浄



浄化槽の適正な維持管理

3 単独処理浄化槽の速やかな転換を！

単独処理浄化槽は、し尿のみを処理し、台所や洗濯、お風呂の水は未処理のまま放流するため、川や海の水質汚濁の大きな原因となっています。

また、単独処理浄化槽は老朽化しているものが多く、使用している方は速やかに合併処理浄化槽に転換してください（下水道が供用されている地域の方は速やかに下水道に接続してください）。県内市町村では、合併処理浄化槽への転換費用に対する補助制度を設けていますので、お住いの市町村関係課までお問合せください。

なお、昨年度の浄化槽法改正により、浄化槽本体に著しい破損又は劣化箇所があり、汚水が漏水しているなど、そのまま放置すれば生活環境や公衆衛生上重大な支障が生じるおそれがあると認められる単独処理浄化槽（特定既存単独処理浄化槽）は、2020年4月1日から、除却（撤去）等の指導の対象となりました。

4 その他

県及び市町村の広報紙やWebページ等で、生活排水対策や浄化槽の適切な維持管理等に係る情報を掲載しています。

詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/mizutaiki/clean-haisui.html>)



水大気環境課 生活環境地盤対策室
三河湾環境再生グループ
生活環境グループ
電話 052-954-6220・6219（ダイヤルイン）



「あいちの未来クリエイト部」の活動を紹介します



愛知県では、高校生が専門家等の支援を受けながら、地域の環境問題について調査・研究し、その結果を基に環境学習教材を作成する「あいちの未来クリエイト部」の活動を2017年度から行っています。今年度は次の3校のグループが活動しています。

○愛知県立愛知商業高校 ユネスコクラブ

テーマ：ミツバチがつなく持続可能な未来の輪
～地域でつくる全ての生物が

共生したまちづくりへ～

本グループではまず、玉川大学学術研究所教授の佐々木 哲彦さん・原野 健一さんにミツバチと環境のつながりについて、ご講義いただきました。

その後、校内のミツバチの蜜源となっている花を調査するため、学校近隣で様々な花が咲いている徳川園を訪問しました。庭園管理責任者の鬼頭 宏さんに園内の花についてご紹介いただき、調査用に花を採取していただきました。今後は、校内のミツバチの巣箱で採取した花粉団子と徳川園で採取した花の花粉を顕微鏡で比較し、関連性の調査を進めます。また、巣箱の外と中にカメラを設置し、名古屋都心で活動するミツバチの生態やミツバチを取り巻く生態系を研究します。



徳川園の花を観察する様子

○愛知県立佐屋高等学校 科学部

テーマ：ジャンボタニシの駆除と

水田に生きる生物相

本グループでは国立研究開発法人土木研究所主任研究員の森 照貴さんにご指導いただき、校内の水田に生息する外来生物ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）にマーキングを施して行動特性調査を開始しました。また、近隣農家の水田に自作したトラップ

を仕掛け、ジャンボタニシを捕獲・駆除しました。

今後も定期的に生息分布を記録することで、行動特性調査を継続していきます。そのほか、ジャンボタニシの推定生息数の算出や駆除方法の検討、水田内の生物を調査します。



トラップ設置場所を確認の様子

○愛知県立豊田高等学校 科学部

テーマ：豊田市籠川、伊保川における魚類の変化

本グループでは豊田市矢作川研究所研究員の山本大輔さんにご指導いただき、河川の魚類調査の方法や調査研究の進め方について学びました。そして、実際に伊保川で生物の捕獲調査と種の同定を行い、川の状況を考察しました。

今後も捕獲調査を続け、籠川、伊保川に生息する生物や周辺の環境を明らかにします。また、自分たちの調査結果と2000年に実施した碧南市海浜水族館による調査結果を比較し、環境変化を検証していきます。



伊保川での生物捕獲調査の様子

この度、「あいちの未来クリエイト部」公式 Instagram を開設しました。活動の様子を発信していきますので、是非ご覧ください。

(<https://www.instagram.com/>

[aichi_miraicreate/?hl=ja](https://www.instagram.com/aichi_miraicreate/?hl=ja))



環境活動推進課 環境学習グループ
電話 052-954-6208 (ダイヤルイン)

「国際フロンティア産業メッセ2020」の愛知県ブースに 優れた環境技術を有する企業が出展しました



優れた環境技術を有する愛知県内の企業・団体を広く紹介するとともに、商談や宣伝の機会を提供することを目的として、神戸市で開催された「国際フロンティア産業メッセ2020」(会期:9月3日、4日)に愛知県ブースを出展しました。

会期中には、展示会全体で約1万人の来場があり、公募の上、選定した県内企業8社の優れた環境技術や3R製品とともに、本県の循環ビジネスへの支援施策も紹介しました。各ブースでは、独自の技術・製品を積極的に発信し、商談につなげることができました。



出展企業による環境技術・3R製品の発信

愛知県ブースへの出展企業一覧 (五十音順)

(株) イーズライフ	ソーラー蓄電による防災等対策商品
岡谷鋼機(株) 名古屋エレクトロニクス部	災害時輸送・無人調査に資するドローン用電動ウインチ
サハシ特殊鋼(株)	廃棄物減容化に資する粉体摩擦乾燥技術
日本エンジン(株)*	エンジンリビルト(再生)技術
(株) マキテック	植物由来廃棄物燃料のバイオマス発電装置
(株) 丸繁製菓*	使い捨て容器削減に貢献する可食容器
ヤマダインフラテクノス(株)*	環境に配慮した既存鋼橋塗装塗替え技術等
(株) ランド*	廃棄物再生原料による雑草防止舗装材

*愛知環境賞優秀賞受賞企業

〔資源循環推進課 循環グループ
電話 052-954-6233 (ダイヤルイン)〕

リデザインした「エコキャラ」を紹介します



愛知県は、昨年度身近な環境配慮行動「エコアクション」を題材とした「エコキャラ」を募集し、4作品を表彰しました。今後、この「エコキャラ」をWebページなどで広く活用するため、次のとおりリデザインしましたのでご紹介します。

【愛知県知事賞】エコキャン



刈谷市 倉知 永さんの作品

【刈谷市長賞】エコりん



刈谷市 三浦 音愛さんの作品

【エコアクション賞】エコポン



知多市 田中 小春さんの作品

【OS☆U賞】エコのようせい エコリー



刈谷市 片山 楓音さんの作品

「エコキャラ」たちは、AELネットスタンプラリーをはじめ、環境広報のキャラクターとして活躍していきますので、ご期待ください。

〔環境活動推進課 環境学習グループ
電話 052-954-6208 (ダイヤルイン)〕

1 目的

この大会は、次代を担う子どもたちが主体となり、学校や団体が行っている野生生物の保護活動等の取組発表を通して、県民の皆さんに野生生物に対する保護思想の普及・啓発、生物多様性保全に係る意識の高揚等を図ることを目的に開催しています。

2 大会内容

「第50回愛知県野生生物保護実績発表大会」は9月22日（火・祝）、刈谷市産業振興センターにて開催され、県内の野生生物保護等の活動を行っている11校が、それぞれの取組について発表を行いました。

各校の発表では、野鳥やホタルの保全活動、魚や昆虫などの希少種の保全、ビオトープでの生物調査など、生物多様性保全の観点から地域の自然特性を活かした取組が紹介されました。

今年は新型コロナウイルスの影響があり、入場者を入れ替え制にするなどの対策をしっかりと行った上で開催しました。コロナ禍の中でも、子どもたちの活動意欲は衰えることなく、未来を見据えた創意工夫のある取組は、自然への愛着が感じられ、多様性に富んだものでした。輝きを放った素晴らしい未来の生きものサポーターとして、今後も息長く活動を継続してほしいと願います。

愛知県知事賞受賞校の発表の様子



滝脇小学校



佐屋高等学校



美合小学校

3 審査結果

(五十音順)

愛知県知事賞	
愛知県立佐屋高等学校 生物生産科作物専攻・科学部（愛西市）	生きものの楽園を目指した水田づくり
豊田市立滝脇小学校	私たちの愛鳥活動 知ろう！滝脇の自然 守ろう！私たちの森 広げよう！地域へ
岡崎市立美合小学校	生田蛭は「美合の宝」 ～発信しよう「ふるさと美合」を守るため～
愛知県教育委員会賞	
岡崎市立生平小学校	守ろう！野鳥のすむ町『生平』
岡崎市立河合中学校 自然科学部	河合の宝 ゲンジボタル —伝統の継続 そして一歩前進—
愛知県自然観察指導員連絡協議会賞	
愛知県立一宮商業高等学校 地域貢献部（一宮市）	守ろうイタセンパラ、繋げよう地域の活動！
愛知県立木曾川高等学校 総合実務部（一宮市）	未来に伝える 守ろう 国の天然記念物イタセンパラ
桜丘高等学校 生物部（豊橋市）	タガメの生態と繁殖の研究
愛知県獣医師会賞	
豊田市立五ヶ丘東小学校	自然と人とが共存するふるさと“五東の里”をつくろう
岡崎市立東海中学校 自然科学部	未来へつなぐ襷 ～東海の自然を次代につなぐ～
愛知県立三谷水産高等学校海洋資源科栽培漁業コース（蒲郡市）	ウナギの保護と生物多様性の保全

1 10月の気候の変化

名古屋の10月の降水量は、近年やや増加傾向がみられます。これは、台風の東海地方への接近が10月も多くなっていることが原因と考えられます。今月も油断せずに、台風への備えが必要です。

台風の東海地方への接近回数 (月別平均)

	7月	8月	9月	10月	11月
1981~2010年	0.47	1.00	1.03	0.53	0.03
2011~2019年	0.67	0.78	1.11	1.11	0.00

(気象庁のデータを基に作成)

2 高温による稲作への影響

秋はお米の収穫時期です。近年の愛知県内のお米の生産量には大きな変化は見られませんが、外観品質の低下が大きな問題となっています。

県内で栽培されている従来の品種では、穂が出てから実るまでの平均気温が27℃以上になると、お米にデンプンが十分に蓄積されず外観が白く濁る白未熟粒しらみじゅくりゅうと呼ばれる外観品質の悪い米粒が増加します。

特に、県内で生産量が多い品種の一つであるコシヒカリは、穂が出てから実るまでの時期がおおよそ7月下旬から8月下旬にあたり、近年は特に高温となることが多いため、白未熟粒の発生割合が高く、最高ランクの外観品質を意味する1等米の比率が全国平均よりも低くなる傾向にあります。

3 高温耐性品種の開発

そこで、愛知県農業総合試験場は、高温耐性を持つ新品種「愛知123号(なつきらり)」を開発しました。

「愛知123号(なつきらり)」は同時期に実るコシヒカリと比べて高温条件下でも白未熟粒の発生が少なく、特に猛暑の年の外観品質は明らかに良くなります。もっちりとした食感があり、味や粘りはコシヒカリと同等の良食味です。このお米は、今年度から県内の農家で栽培が始まっており、今後も拡大する予定です。



愛知123号(なつきらり)



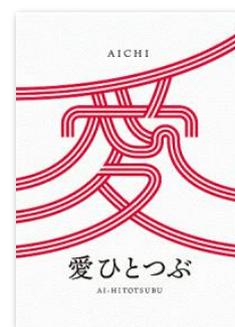
高温で品質が低下したコシヒカリ

玄米の外観の比較

4 「愛ひとつぶ」を食べて応援しよう!

農産物は、食べることでその品種・ブランドを応援することができます。

今年の9月から、一定の品質基準を満たした「愛知123号(なつきらり)」が愛知県の新たなブランド米「愛ひとつぶ」として県内限定販売されています。



「愛ひとつぶ」ブランドマーク

「愛ひとつぶ」は、猛暑の年でも美味しく、透き通ったきれいなお米です。店頭などで見かけたら、是非食べてみてください。

また、「愛ひとつぶ」についての詳細はWebページをご覧ください。

(<https://ai-hitotsubu.jp/>)



5 食材選びで省エネ(緩和策)

普通の食生活においても、温室効果ガスを削減する緩和策に取り組むことができます。

地元でつくられた食材を選んで消費する「地産地消」は、手元に届くまでの輸送距離が短くなるためCO₂の削減につながります。また、旬の食材は、暖房で育てるなどのエネルギーが必要ありません。

地元の食材や旬の食材は、栄養価が高く新鮮なものが手に入りやすいというメリットもあります。食材を買う際は、産地や旬の時期を確認してみましょう。

環境調査センター 企画情報部
気候変動適応センター
電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)

生物多様性の保全と持続可能な利用に関する優れた取組「あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス」の受賞事例について、前号に引き続き、市民団体等の取組を紹介します。

ネイチャークラブ東海

愛・地球博記念公園における愛知県の「森林再生プロジェクト」事業を継続実施するために当団体を立ち上げました。

「幼児期における自然体験」を主なテーマとして、ギフチョウの保護、シラタマホシクサが生育する湿地の再生、ハルゼミの保全活動などを、小学生親子と一般県民の参加を得ながら実施しており、ギフチョウの産卵数の増加や湿地へのハッチョウトンボの飛来などを確認しています。



伐採作業

特定非営利活動法人藤前干潟を守る会

藤前干潟は、渡り鳥の重要な中継地であり、多様な生物の生息地です。1984年の廃棄物最終処分場建設に伴う藤前干潟埋立計画をきっかけに活動を始めました。干潟観察会、シンポジウム等の開催、メディアを通じた啓発活動など全国、更に国際的な世論とも協力しながら保全の機運を高めました。

現在は、生物の減少等の課題への取組、藤前干潟の案内人養成事業、次世代への継承のためのプログラムを実施しています。



干潟ガイド活動実習

山崎川グリーンマップ、「あいちの海」グリーンマップ

温暖化等の環境変化により、山崎川や身近な海からいなくなった生きものは、科学的証拠となる写真等がないものがほとんどです。そこで、地元の子供たちがお年寄りから聞き取りをするという手法で、今ではなくなってしまった貴重な生きものにまつわる情報を集めました。

情報は「山崎川いま・むかし」、「大井・片名いま・むかし」という冊子にとりまとめ、セミナーで発表しました。



聞き取りの様子

命をつなぐPROJECT

知多半島臨海部には全長 10km にわたる企業緑地が広がっており、2011年に“企業の緑がつなぐ、地域の絆と生態系”をテーマに活動を開始しました。企業・NPO・学生・専門家・行政など、多くの主体で構成され、生物多様性保全に取り組んでいます。

活動では、動物の通り道となるアニマルパスウェイ新設やビオトープ整備を行いました。また、「生態系ネットワーク向上」「次世代の担い手育成」に向け、地域全体に生物多様性を普及啓発しています。



ビオトープ整備

〔自然環境課 生物多様性保全グループ
電話 052-954-6475 (ダイヤルイン)〕

※ 掲載の研修会やイベントは、新型コロナウイルス感染症などにより、内容の変更又は中止する場合があります。

愛知県環境情報紙「環境かわら版」
令和 2 年 10 月 5 日発行(第 293 号)
編集・発行 愛知県環境調査センター
企画情報部
〒462-0032 名古屋市中区辻町字流 7-6
電話 052-908-5112(ダイヤルイン)

編集後記

10 月に入り、ようやく過ごしやす季節になってきました。今年の夏は気温が 35℃以上になる日が続き、例年になく厳しい夏でした。これから秋に向けて、空気が乾燥し、感染症に注意が必要な季節になりますが、コロナ対策のためにも免疫力を下げないことが大切です。“食欲の秋”でもある今の時期から、バランスの良い食事を心がけて夏の疲れを解消しておきましょう。
(企画・編集チーム)

※ この環境かわら版は、環境局 Web ページ「あいちの環境」<https://www.pref.aichi.jp/kankyo/>でも発信しており、今月号及びバックナンバーをカラーでご覧いただけます。ページは右の QR コードからアクセスできます。

※ QR コードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

掲載記事は広報紙等へ再掲していただきますようお願いいたします。

